

令和6年度 福岡市自殺対策協議会議事録

開催日時： 令和6年7月23日（火） 14:00～15:30

開催場所： あいれふ7階 第2研修室

出席者： 出席委員 25名（代理出席 2名） 欠席委員 2名 事務局 9名

傍聴： なし

会議次第および議事要旨

1 開 会

2 所長挨拶

3 委員等紹介

4 議事

会長－福岡県立大学 小嶋秀幹委員、副会長－福岡市薬剤師会 清水敦委員

議題1 福岡市の自殺統計について

「人口動態統計」および「警察統計」から、自殺者数の推移等を報告。

警察統計では、福岡市は令和5年男性は40代、女性は30代が多い。

（委員）遺族会でのご参加は、その年代の家族を亡くされた方が増えた印象。

議題2 福岡市自殺対策総合計画の取り組みについて

- ・自殺対策推進センター 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画

4つの重点施策。

1. ゲートキーパー養成
2. 自殺未遂者支援、自死遺族支援の強化
3. 若年層、児童生徒への自殺予防に資する教育の推進
4. 女性特有の視点を踏まえた自殺対策

以上の重点施策ほか 相談支援事業、人材養成事業（ゲートキーパーほか）、普及啓発事業、関係機関との連携、庁内連携は継続して行う。

- ・各関係機関等 令和5年度取組報告及び令和6年度取組計画

福岡大学医学部精神医学教室、福岡県弁護士会、福岡市薬剤師会、リメンバー福岡 自死遺族の集い、福岡市民生委員・児童委員協議会、福岡いのちの電話、福岡県警察、福岡市子ども未来局より報告。

<質疑 意見>

（委員）福岡市の自殺に関する電話相談の体制について。

（事務局）電話相談は1名対応だが、内容により複数の相談員で内容を検討し相談者へ対応。

（委員）自殺対策に関して、SNS 関連での取り組みについて。

（委員）SNS を介した自殺問題とその低年齢化。しかし負の側面だけでなく、支援者や仲間とつながるツールにもなっている。SNS を介して、自殺問題をもつ方が保護されたケースもある。

(委員) アウトリーチの仕組みについて。

(委員) 例えば司法書士会のアウトリーチ相談（ベツトサイド法律相談）など。入院中に病院へ司法書士の派遣。借金相談、成年後見制度、生活保護相談など。

(委員) 措置入院非該当者への対応。アウトリーチシステムが必要。デンマークでの実例。自殺予防クリニックによるアウトリーチ活動など。日本でも見直しの必要。

(委員) 学校における自殺予防の研修の実施割合について。

(事務局) 福岡市内公立小中学校、特別支援学校、市立高校の9割ほどの実施。ほか通信制高校、専門学校、私立高校からの依頼もある。

(委員) 教職員が研修を受講し、子どもたちへの教育の取り組みにつなげる。

(委員) 特に市販薬の乱用、生きづらさを抱えている若者への対応、児童生徒がSOSを出せるような双方のコミュニケーションも必要。勤労者のメンタル対策強化も継続していく。

5. 閉会